

患者さま並びに関係の皆さまへ

自己血糖測定器の不適切な運用についてのご報告とお詫び

北里大学病院

病院長 岩村 正嗣

小児病棟において、糖尿病の患者さまが自分で血糖値を測るために使用する「自己血糖測定器」の種類を選ぶにあたり、それが患者さまや、患者さまのご両親などにとって使いやすいかどうかを確認するために、いくつかの見本の「自己血糖測定器」を試験的に使っておりました。その中には、複数の患者さまに使用して良いものもありますが、本来、複数の患者さまへの使用を想定していないタイプの自己血糖測定器を複数の患者さまに使用していたことが、2018年4月に発覚いたしました。この「自己血糖測定器」については、採血するときに患者さまの指先に直接刺す針は患者さまごとに交換していましたが、この針をセットする器具を複数の患者さまに使用しておりました。このことから、「針」から「針をセットする器具」に、また、その「針をセットする器具」から別の「針」へ間接的に血液が付着して、同じ「針をセットする器具」を使った複数の患者さまの間で血液感染する可能性が完全には否定できないことがわかりました。

この血液感染する可能性がある「自己血糖測定器」については、2001年1月から2018年4月の間に使用されたものであることが判明しましたので、この期間に、この「自己血糖測定器」を試験的に使用した患者さま69名に対して、健康被害の有無を確認することといたしました。

確認作業については、2018年6月より、健康被害の有無を確認する必要がある対象者69名のうち、連絡のとれた65名の患者さまに対して、肝炎などの血液感染を確かめるための血液検査を実施し、その結果、感染された方はいないことが確認できました。残りの4名の患者さまに対しては、電話及び手紙での連絡がとれず、検査が施行できておりませんが、この方々の入院は、既に検査により血液感染が無いことが判明している65名の入院した期間内であり、現在まで判明している範囲で全ての使用者の感染症が全て陰性であったことを考慮すると、「自己血糖測定器」を介しての感染のリスクは無いものと判断いたしました。

今後の再発防止策としては、「自己血糖測定器」を試験的に使用する場合であっても、必ず、ひとりの患者さまに限定して使用することとし、同じものを他の方が使用することが決して無いように運用を周知徹底してまいります。今回の件については、当院における「自己血糖測定器」の取り扱いに関する認識や、その運用に問題があったことは明らかではありますが、今後はこのようなことが二度と起こらないよう、職員一丸となり、より一層の医療安全に努めていく所存です。

このたびは、多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

○本件に関する問い合わせ先

北里大学病院 医療の質・安全推進室

TEL 042-778-8450

【平日】月曜日～金曜日 8:30～17:00